

1983年愛知県生まれ。美術作家。

学歴

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程(彫刻領域) (2021年4月 - 現在在籍中)

京都造形芸術大学(現:京都芸術大学)情報デザイン学科 (2001年4月 - 2005年3月)

職歴

ロームシアター京都リサーチプログラムリサーチャー(2022年)

京都市東山青少年活動センター東山アールスペースナビゲーター(2018年 - 現在継続中)

尾道市立大学非常勤講師(2018年)

倉敷芸術科学大学非常勤講師(2014年 - 2019年)

京都芸術大学講師(2012年 - 現在継続中)

個展

2022年 砂のはなし | 京都市京セラ美術館ザ・トライアングル ※オンラインカタログ(JP/EN)、カタログ(JP/EN)

2021年 発表会 | Social Kitchen(京都) ※木曽路として参加

2020年 Flash | FINCH ARTS(京都)

2018年 われわれは、乗船中の船を大海原で改修しなければならない船乗りの様なものである。一から組み直すことなどできるはずもなく、梁を外したら間髪入れず新しい梁を付けねばならないし、そのためには船体の残りの部分を支保に利用するしかない。そういう具合に、古い梁や流木を使って船体全てを新しく作り上げることはできるものの、再構成は徐々にしかおこなえない。 | HARMAS GALLERY(東京)

2017年 To Look at the Fire | Daiwa Foundation(ロンドン) 協賛:株式会社資生堂

2016年 Touching / Touched by | AISHONANZUKA(香港)

2013年 目地 | AISHO MIURA ARTS(東京)、サンセイドウギャラリー(兵庫) ※カタログ(JP/EN)

2010年 ルール・レーレ・ローロ | 遊工房アートスペース(東京)

2009年 ARKO2009 彦坂敏昭 | 大原美術館(岡山) ※カタログ(JP)

2008年 ARCO Solo Project | Ifema(マドリッド)

2008年 テサグリの図画 | 資生堂ギャラリー(東京) ※第2回セイドウアートエッグ

2008年 ARTIST ON BOARD -2つの展覧会- 岩熊力也 彦坂敏昭 | TAMADA PROJECTS ARTSPACE(東京)

2006年 edit edition | stem gallery(大阪)

2005年 物見の台 | ギャラリーマロニエ(京都)

2004年 闇の差し込む居場所 | ギャラリー手(東京)

2004年 テサグリの図画 | ギャラリーマロニエ(京都)

グループ展

2021年 OBJECT & BOOK 2021 | 京都岡崎 蔦屋書店 1F ロビー(京都)

2021年 木曾ペインティングス 千年のすみか | 木曾村藪原宿(長野) ※木曽路として参加

2021年 DELTA Exhibition | TEZUKAYAMA GALLERY(大阪)

2021年 Aliens 2 | FINCH ARTS(京都)

2020年 Rollin' Rollin' | FINCH ARTS(京都)

2020年 OBJECT at Anteroom | Hotel Anteroom Kyoto Gallery9.5(京都)

2020年 OBJECT at VOU | VOU(京都)

2020年 Big Hug Transformation | Galerie 5(パリ)

2019年 Open Studio×10 | Studio USA(京都)

2019年 MAIX(Malaysia Artist's Intension Experiment)報告展 | TEMPAT BIBAH(クアラルンプール)

2019年 木曾ペインティングス 夜明けの家 | 木曾村藪原宿(長野) ※木曽路として参加、カタログ(JP)

- 2018年 何を描いているんですか?風景?~風景画の現在進行形|TO OV cafe / gallery(札幌)
- 2018年 Ordinary Children of the 20th Century|ギャラリー・オーブ(現:京都芸術大学内)
- 2017年 VOCA展|上野の森美術館(東京) ※カタログ(JP)
- 2017年 感受と創発|ポーラミュージアムアネックス(東京)
- 2017年 江之子島芸術の日々2017「他の方法」|フラッグスタジオ、マークスタジオ、大阪府立江之子島文化芸術創造センター ※カタログ(JP/EN)
- 2016年 はじまり、美の饗宴展-すばらしき大原美術館コレクション|国立新美術館(東京)
- 2015年 藪の中|ギャラリー・オーブ(現:京都芸術大学内) 協賛:株式会社資生堂
- 2014年 egØ -「主体」を問い直す-|punto(京都) ※カタログ(JP/EN)
- 2014年 オオハラ・コンテンポラリー・アット・ムサビ|武蔵野美術大学美術館(東京) ※カタログ(JP)、記録集(JP)
- 2013年 Education, Education and Education|Zone(倉敷芸術科学大学内、岡山)
- 2012年 現代絵画のいま|兵庫県立美術館 協賛:株式会社資生堂 ※カタログ(JP/EN)
- 2011年 カメラ・ルシーダ|AISHO MIURA ARTS(東京)
- 2011年 TRANS COMPLEX -情報技術時代の絵画-|京都芸術センター 協賛:株式会社資生堂 ※カタログ(JP/EN)
- 2010年 No Man's Land -Nouvelle Me'tamorphose du Lieu|旧フランス大使館(東京)
- 2010年 discollage -ものの組み合わせには何かルールがありますか。|Yuka Contemporary(東京)
- 2009年 RAIN MEETS THE SUN|M.K. Ciurlionis National Art Museum(カウナス、リトアニア) ※カタログ(EN)
- 2009年 テキーラ テキエロ ~アートに恋して~|ギャラリーニモード(東京)
- 2009年 Niche|Nroom artspace(東京)
- 2009年 BAROCK PLASTIK|I-MYU Projects(ロンドン)
- 2009年 深川100人100色 だるま展|深川いっふく(東京)
- 2008年 The White|MA2 Gallery(東京)
- 2008年 Twenty. |Dazed and Confused(ロンドン)
- 2008年 Drawing|土屋現代美術画廊(大阪)
- 2008年 MOTアニュアル2008 解きほぐすとき|東京都現代美術館 ※カタログ(JP/EN)
- 2007年 41流展|ギャラリー手(東京)
- 2006年 GEISAI #10|東京ビックサイト
- 2006年 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2006|十日町(越後妻有地域、新潟) ※カタログ(JP)
- 2006年 花みずき街角誰でもアーティスト|深川資料館通り商店街(東京)
- 2006年 ネズミ講展|maru gallery(東京)
- 2005年 秘伝ディメンション展|テンポラリー・コンテンポラリー(東京) ※カタログ(JP)
- 2005年 コミュニケーションアート展|さいたまスーパーアリーナ(埼玉)
- 2005年 《気》派展|ギャラリー手(東京)
- 2005年 京都府美術工芸新鋭選抜展 ~2005 新しい波~|京都文化博物館 ※カタログ(JP)
- 2004年 東京コンペ|丸の内ビルディング(東京) ※カタログ(JP)

レクチャー&トークイベント

- 2021年 木曾路「発表会」トークイベント|Social Kitchen、6月19日
- 2020年 京都:Re-Search|南丹市役所八木支所、9月15日
- 2019年 MAIX(Malaysia Artist's Intension Experiment)|MAIX HOUSE(クアラ・カンサー、マレーシア)、7月7日
- 2018年 松島の美術館を考える会|田之浦パークセンター(岡山)、3月
- 2016年 DECOBOCOギャザリング彦坂敏昭|江之子島マークスタジオ(大阪)、4月18日
- 2016年 Newspaper Sketches of Ocean Waves: Technosphere at the Edge of Globalisation|Cultural Typhoon2016(東京藝術大学)、7月3日
- 2015年 自主企画トークイベント「アートとメディアについてのレクチャー」(ゲスト:吉岡洋、仲間裕子)、ギャラリーオーブ(京都)、1月23日
- 2014年 オオハラ・コンテンポラリー・アット・ムサビ|武蔵野美術大学美術館、6月30日 ※カタログ(JP)
- 2011年 自主企画トークイベント「アートとサイエンスについてのレクチャー」(ゲスト:池上高志、吉岡洋)、京都芸術センター、2月5日
- 2005年 発言する新人たち|東京都現代美術館

ワークショップ

- 2023年 東山アートのスペース | 主催:京都市東山青少年活動センター、場所:京都市東山青少年活動センター創作室
※2018年4月より年回10会程度の知的な障がいを持つ青少年の創作活動を支援する「東山アートのスペース」事業のナビゲーターを務めている。
- 2023年 下手な長散歩 | 主催:山中suplexの別棟「MINE」、場所:「MINE」から大阪城 ※木曽路として参加
- 2022年 挫折の焙煎 | 主催:木曽路、場所:木曽村葎原宿藤屋前のウッドデッキ(長野)
- 2021年 へんてこ食堂 | 主催:京都府立京都学歴彩館、場所:京都府立京都学歴彩館
- 2019年 根っこによきによき | 主催:こども芸術大学、場所:こども芸術大学(京都)
- 2019年 一番遠くのを描いてみよう | 主催:木曽ペインティングス、場所:笑ん館(長野)
- 2017年 To pick up the shadow | 主催:大和日英基金、協賛:株式会社資生堂、場所:リージェンツ・パーク(ロンドン)
- 2017年 To pick up the shadow | 主催:江之子島芸術の日々実行委員会、場所:大阪府立江之子島文化芸術創造センター
- 2014年 みたことのない私の描きかた | 主催:大阪新美術館建設準備室、後援:大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、
場所:大阪市立九条南小学校、大阪市立大宮小学校
- 2014年 自画像を描いてみよう | 主催:経済産業省、場所:国立長寿医療研究センター(愛知)
- 2012年 へんかする・みる | 主催:一時画伯推進委員会、場所:いわき市永崎保育所(福島)
- 2011年 きくこと | 主催:一般社団法人Arts Alive、場所:母子生活支援施設パークサイド亀島(東京)
- 2011年 かくこと | 主催:一般社団法人Arts Alive、母子生活支援施設北区立浮間ハイマート(東京)
- 2010年 ザ・ペインター | 主催:一般社団法人Arts Alive、場所:熱海の里(静岡)
- 2010年 ザ・ペインター | 主催:一般社団法人Arts Alive、場所:夜間保育園キッズタウン浮間(東京)

学術論文

- 幼児の表現が育む読み聞かせ環境 『こども芸術と教育』第三号、2021年
- 幼児にとっての表現とは何か—その本質と教育に関する考察— 『こども芸術と教育』第二号、2020年
- 幼児の「表現」領域の基礎をどう捉えるか 『こども芸術と教育』創刊号、2019年、p25-35

執筆、出版

記録集出版 | 『砂のはなし記録集』

(編集(同行人):出版社さりげなく 稲垣佳乃子 / デザイン:出版社さりげなく 梅本華乃 / 執筆:佐藤知久、吉岡洋、彦坂敏昭)

エッセイ | 思い通りにならない砂と共に、この夏に考えたこと 『京都市セラ美術館ニュース』No.219、2022年

研究ノート | こども芸術への人類学的アプローチ “物に参加する” 芸術実践を通して 『こども芸術と教育』第四号、2022年

作品集出版 | 『Hicosaka Toshiaki 2022』

(編集:彦坂敏昭、堤拓也 / デザイン:堤拓也 / 執筆:荒木悠、遠藤水城、加藤隆文、中村史子、村山悟郎、山本麻紀子 他)

エッセイ | においを嗅ぐ。口に入れる。 『子どもの泉』42号(2020年)、p1

エッセイ | 「縁プロジェクト」を振り返って 『東山アートのスペース活動報告書「いつもの日曜日」』 2020年2月

エッセイ | 造形活動の環境設定 『東山アートのスペース活動報告書「いつもの日曜日」』 2019年7月

研究ノート | 幼児の描画行為の〈始まり〉をどう捉えるか—保育者が創造的な関わりを構想するための手がかりとして—

『京都造形芸術大学紀要』(2017年)、p91-95

論文(本田江伊子との共同執筆) | NEWSPAPER SKETCHES OF OCEAN WAVES アンソロポセンカリキュラム(HKW、ベルリン、2017)

WEBSITE: <https://www.anthropocene-curriculum.org/contribution/newspaper-sketches-of-ocean-waves>

エッセイ | 作品を見ながらチーズのことを思い出していた 『AAC』84号、p13

エッセイ | ルール・レーレ・ローロ『美術手帖』vol.62 no.937、2010年6月号、p.52

作品集出版 | BOOKLET-02(Burning House) TOSHIAKI HICOSAKA、2009年 (編集、デザイン:彦坂敏昭)

作品集出版 | BOOKLET-01 TOSHIAKI HICOSAKA、2005年 (編集、デザイン:彦坂敏昭)

受賞&助成

- 2017年 選出 | VOCA展(主催:上野の森美術館、東京)
/ 推薦者:遠藤水城(HAPSエグゼクティブ・ディレクター、Vincom Center for Contemporary Art芸術監督)
- 2016年 最終選考 | Hariban Award'16(主催:便利堂)
/ 審査員:サイモン・ペーカー(英国国立美術館テートモダン 写真・国際美術部門チーフキュレーター)

- 2015年 最終選考|500m美術館賞(主催:札幌大通地下ギャラリー)
/ 審査員:榎木野衣(美術批評家)、遠藤水城(HAPSエグゼクティブ・ディレクター、Vincom Center for Contemporary Art芸術監督)
- 2015年 在外研修助成|ポーラ美術振興財団(イギリス、アイスランド)
- 2014年 入選|第6回 絹谷幸二賞 / 推薦者:三井知行(大阪新美術館建設準備室学芸員)
- 2011年 受賞|展覧会ドラフト(主催:京都芸術センター)
/ 審査員:長谷川祐子(東京都現代美術館学芸員)、平芳幸浩(京都工芸繊維大学准教授)
- 2009年 助成|ポロック・グラズナー財団(ニューヨーク、アメリカ)
- 2008年 選出|ARKO2009(主催:大原美術館) / 審査員:高階秀爾(大原美術館館長)、柳沢秀行(大原美術館学芸員)
- 2008年 選出|第2回シセイドウアートエッグ(主催:資生堂ギャラリー) / 審査員:水沢勉(神奈川県立美術館館長)、岡部あおみ(美術評論家)
- 2005年 入選|東京コンペ(主催:アタマトテ・インターナショナル) / 審査員:日比野克彦(アーティスト)、荒木経惟(写真家)

レジデンシー

- 2019年 MAIX(Malaysia Artist's Intension Experiment)|クアラカンサー、マレーシア、2週間
- 2016年 NES Artist Residency|スカーガストロント、アイスランド、3ヶ月
- 2015年 STANLEY PROJECT|ロンドン、10ヶ月
- 2014年 Tool|愛知、10日間
- 2009年 ARKO2009|岡山、3ヶ月

コレクション

東京都現代美術館美術図書室、大原美術館、高橋コレクション、JAPIGOZZI Collection

参考文献

○展覧会カタログ

- 『ザ・トライアングル 彦坂敏昭:砂のはなし』京都市京セラ美術館、2022年
- 『木曾ペインティングス vol.3』木曾ペインティングス、2019年
- 『江之子島芸術の日々2017「他の方法」』江之子島芸術の日々2017実行委員会、2017年
- 『VOCA展』上野の森美術館、2017年、執筆:遠藤水城
- 『オオハラ・コンテンポラリー・アット・ムサビ記録集』武蔵野美術大学 美術館・図書館、2014年
- 『egØー「主体」を問い直すー』egØ展記録冊子委員会、2014年
- 『オオハラ・コンテンポラリー』大原美術館、2013年
- 『目地:インターフェイス、あいまい』サンセイドウギャラリー、2013年、執筆:吉岡洋
- 『現代絵画のいま』兵庫県立美術館、2012年、執筆:出原均
- 『TRANS COMPLEX 情報技術時代の絵画』京都芸術センター、2012年、執筆:吉岡洋、長谷川祐子、高嶋慈、野老朝雄
- 『RAIN MEETS THE SUN』M.K. Ciurlionis National Art Museum、2011年
- 『ARKO2009 彦坂敏昭』大原美術館、2009年、執筆:沢山遼、柳沢秀行
- 『MOTアニュアル2008 解きほぐすとき』東京都現代美術館、2008年、執筆:西川美穂子
- 『第2回資生堂アートエッグ』資生堂ギャラリー、2008年
- 『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2006』北川フラム / 大地の芸術祭実行委員会編、現代企画室、2007年
- 『秘伝ディメンション〈象徴界〉のアートをさがして』テンポラリーコンテンポラリー、2005年
- 『気派展』ギャラリー手、2005年
- 『京都美術工芸新鋭選抜展 ~新しい波~』京都文化博物館、2005年
- 『東京コンペ#1』丸の内ビルディング、2004年

○インタビュー

- インタビュー「彦坂敏昭」『withart』vol.02、2022年8月
- インタビュー(平芳幸浩 × 村山悟郎 × 彦坂敏昭) 「TRANS COMPLEX - 情報技術時代の絵画」AMeeT、2011年2月
- 「TRANS COMPLEX - 情報技術時代の絵画(インタビュー)」『京都芸術センター通信 明倫art』vol.129 2011年1月20日、pp.1-2

○逐次刊行物

高階秀爾 「像画(背景に落ちていく)」『ニッポン現代アート』講談社、2013年4月、pp.70-71

保坂健二郎 「形象と形態」『日本のアーティスト ガイド&マップ』美術出版社、2011年11月、p.77

樋口ヒロユキ 「TRANS COMPLEX—情報技術時代の絵画 ～ルール自体のメタレベルの考察」『T.H.トーキング・ヘッズ業書』No.46、2011年5月、pp.40-41

岩本敏朗 「若手が描く 情報技術時代の絵画」、『京都新聞』、2011年2月21日

高階秀爾 「像画(背景に落ちていく)」『本』、2010年11月号、p.68

「新世代アーティスト宣言!」『美術手帖』、2010年6月、p.52

糸崎公朗 「ブリコラージュ写真論」『デジタル写真生活』p.110

小川敦生 「才能が育つアトリエ 大原美術館の滞在制作」『日本経済新聞』2009年8月20日

「FREE EYES FOR ART ニューアーティストによる誌上展覧会。」『DAZED & CONFUSED JAPAN #71』2008年、p.125

西川美穂子 「Asian Contemporary Artist」『art in ASIA』No.4、2008年、p.153

大西若人 「MOTアニュアル2008 解きほぐすとき」『朝日新聞』2008年3月19日

西麻沙子 「燃えさしの街で(今月のほれぼれ)」『芸術新潮』第58巻第1号(通巻685号)、2007年1月号、p.9

成相肇 「彦坂敏昭 岩熊力也 ARTISTS ON BOARD 2つの展覧会」『美術手帳』vol.59 no.890、2007年1月号、p.241

太田垣寛 「ヒコサカ・トシアキ展」『京都新聞』2004年2月7日

○WEB

高嶋慈 「「絵画」を偽装せよ」PEELER、2011年3月

往復書簡ブログ(村山悟郎 × 彦坂敏昭) 「TRANS COMPLEX 往復書簡」2010年

「第2回 shiseido art egg賞 審査評」SHISEIDO GALLERY、2008年5月

倉林靖 「イメージの消滅と再生」WEBスカイドア 現代篇、2008年5月

菅原義之 「若手の作品展を見て」PEELER、2008年4月

沢山遼 「第2回 shiseido art egg 彦坂敏昭」ART遊覧、2008年4月

岡部あおみ・水沢勉 「第2回 shiseido art egg 審査員評」SHISEIDO GALLERY、2007年

○その他

高階秀爾 「像画(背景に落ちていく)彦坂敏昭」『ニッポン現代アート』講談社、2013年、p.70-71